

—進路部通信—

新宿通信

NO. 64

- 大学合格者数状況
- 祝！入学 76 回生
- 進路指導部の先生紹介

「自分が思う通りの大きな木を育てるために」

校長 藪田 憲正

進路選択に向けて諸君それぞれが、様々に思い、悩んでいることと思います。そんな中で、目標の達成にむけて「努力なさい」といわれることもあるかもしれません。

私も人生の中で「努力」という言葉を何度も聞いてきました。そんな中で、「努力しても報われないことがある。しかし成功した人は皆努力している」という言葉を耳にしたことがあります。なるほど確かにそうなのだろうと思うし、なかなかうまい表現だとも思います。しかし、「成功したかったら努力しろ」といわれると、少々違う受け止めになってきます。

どちらも努力することを奨励する言葉です。にもかかわらず、心に入ってきてやすいのは前者ですし、後者は「わかってるよ！うるさいなあ」と口を尖らせたくくなります。

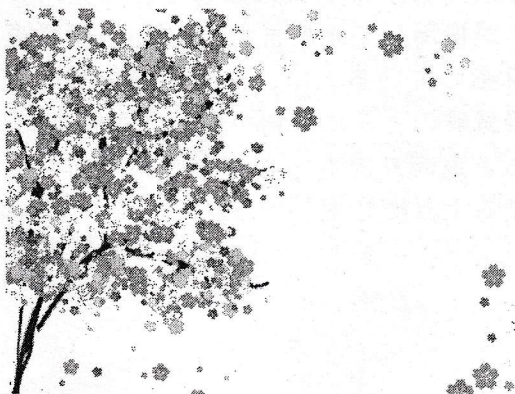
では、両者の違いは何なのでしょう。考えてみると、後者の「成功したかったら」という言葉が引っかかってくる気がします。つまり、前者は「努力する」ということに重きが置かれているのに対し、後者は「努力したその結果」に重きが置かれているからではないでしょうか。

何事もスピード感というものが重視される昨今、やたらと結果を急ぐ傾向にあると思います。言い換えれば、自分の努力がどのような効果や結果をもたらすのかが明白であることには努力できますが、なかなか結果が出ないことには、人間あきらめが肝心と自分を納得させ、さっさと退却してしまう。もしかしたら効果が顕れないかもしれないとなればなおさら「努力する価値があるのか？」と早計に判断してしまうのではないのでしょうか。しかし、結果をもたらさない努力は無意味なのではないでしょうか。良い結論に直ちに結びつかないかもしれない努力はしなくてもよいのでしょうか。

そうではないと私は思っています。努力することそのものに価値があるのです。直接的にはすぐにそれが好結果をもたらさなくても、その努力は必ずプラスになると思うのです。

まずは、木を植えること、そして水を注ぐこと。そのこと自体に意味があるのです。あとは自然と育つのです。すぐに芽が出ないから、そこが木を育てるに難しい土地だから、大きく育ち実をつけるのに時間と労力が必要だから、そう思って木を植えず、水を注がなければ、決して木は育たず、実は付けないのです。

いつの日か諸君が、大きな木を育て、実を手にすることを願っています。



□ 2021 大学合格者数

大学合格状況（現役・既卒生 4/8 現在）

主な国公立大学等			主な私立大学（延べ）		
	現役	既卒		現役	既卒
北海道大	3	1	青山学院大	37	7
帯広畜産大	1	0	学習院大	12	5
東北大	0	1	北里大	9	3
茨城大	1	0	慶應義塾大	26	3
筑波大	8	1	國學院大	14	1
千葉大	14	3	駒澤大	19	2
埼玉大	5	0	芝浦工大	50	4
お茶の水女子大	2	0	上智大	31	3
東京芸術大	1	0	成蹊大	22	1
電気通信大	3	1	成城大	15	2
東京大	1	0	専修大	6	2
東京医科歯科大	1	0	中央大	65	6
名古屋大	1	0	津田塾大	12	0
東京外語大	6	1	東京女子大	11	2
東京学芸大	7	1	東京農業大	24	2
東京工業大	5	1	東京女子医大	1	0
東京農工大	8	1	東京理科大	61	14
一橋大	3	0	東洋大	52	11
東京都立大	14	0	日本大	54	13
横浜国立大	10	2	日本女子大	16	0
富山大	0	1	法政大	59	8
横浜市立大	1	0	東京都市大	9	0
京都教育大	1	0	武蔵大	9	0
高知大	1	0	明治大	128	18
京都教育大	1	0	明治学院大	20	1
横浜市立大	1	0	立教大	73	7
千葉保健医療大	1	0	早稲田大	67	15
その他	5	3	その他	154	12
計	105	18	計	1056	142
	123			1198	

この春の大学合格者数がまとまりました。

国公立大学（文科省以外が所管する大学校を含む）の合格者数は、現役と浪人生を合わせて 123 名（昨年は 111 名）、また私大は 1198 名（昨年は 1114 名）です。国公立はこの 10 年でも最も多く、早稲田・慶応、上智・東京理科でも現役合格者は確実に増加しています。

○赤本ルール

進路室前の廊下と、隣の資料室に赤本が置いてあります。赤本とは大学の過去の入試問題を大学ごとに一冊の本にしたものです。

使い方 今回の時期では、それぞれの大学の出題傾向や難易度をチェックするのに使います。時間を計ってやってみても、今はまだ合格点には届かないかもしれませんが、傾向を知り、対策を講じるために使ってください。入試直前期には文字通り、自分の力試しに活用します。

ルール 廊下に置いてある貸出簿に必要事項を記入すれば借りられます。冊数や期間は特に制限していませんが、みんなが使うものですから常識の範囲内をお願いします。12月になると冊数、貸出期間を制限します。あらためて連絡します。

○医師・看護師体験の案内

進路室前の廊下掲示板にさまざまな案内のポスターが掲示してあります。将来、医師や看護師を目指している人は、一日体験をしておくとか面接試験のときに有利かもしれません。

ちょっと遠回りでもときどき進路室前の掲示板を見るようにしましょう。

祝！入学 76 回生

4月7日、新宿高校第76回入学式が挙行され、新入生318名が入学しました。感染症対策の上で実施したセミナー講習のオリエンテーションなどで新宿高生としての心構えを学ぶことができました。12日月曜日からは待ちに待った授業が始まりました。そこでアドバイス。とにかく最初が肝心です。まずは5月の中間考査を意識して準備をしましょう。

その1 勉強する習慣をつけよう！ 毎日予習！復習！

高校の授業で驚くことは各科目の専門性とその進み具合でしょう。特に授業の進度は中学校とは比較になりません。今日習ったことは翌日には既に皆が完全に理解したものとして先へ進みます。毎日の予習、復習は欠かせません。

その2 定期考査は100点を目指そう！

定期考査は出題範囲が決まっています。ほとんどが授業で習ったことです。100点を取れないことはないのです。平均点以上とすることで満足せず、是非満点を目指して取り組みましょう！

目標は「全員が満点」。

その3 先生に質問しよう！

授業でわからないところは、積極的に担当の

先生に質問しましょう。教員室の座席は教科ごとに並んでいます。担当の先生が不在でも、その近くの席の先生に尋ねてみましょう。授業以外のわからないことは担任の先生に相談しましょう。

自分から動き、声を出すことが肝要です。

○今年度の進路指導部

進路部 専任	飯島（主任・公民） 加藤（数学） 新妻（英語） 笠原（英語） 峯（国語） 寺島（数学） 松本（隆）（化学）
1 学年	川原井（化学） 杉山（英語）
2 学年	浜中（英語） 鈴木（久）（英語）
3 学年	坂本（数学） 吉川（英語）

進路指導室には飯島、加藤、坂本が常駐します。進路に関わる相談など、用事があるときは訪ねてください。

また、進路指導室の隣が「進路指導資料室」になっています。ここには廊下に置ききれなかった赤本や、各大学のパンフレットなどの資料がおいであります。大学のパンフレットはまだ昨年度のものです。

先輩からの言葉

新宿高校から始まった私の「グローバル体験」

名古屋大学大学院経済学研究科教授
元 三井物産株式会社勤務

24 回生 佐野良雄

昭和44年（1969年）新宿高校に入学しました。塩見臨海学校、学園祭、合唱祭など思い出深い出来事がたくさんありましたが、高校ではバレー部に所属し、3年間のクラブ活動が私の高校生生活の中心でした。教科で好きだったのは英語でした。中学生のころから英語に興味があり、高校でも得意科目でした。戦時中は駆逐艦に乗船されていたという海軍仕込みの英語を使う大脇先生の英文法は迫力がありました。大橋先生はリーダーを片手で支えて華麗に英語を話されていました。尾造先生は英語の原著を多く引用

され、シェイクスピアの「ハムレット」に出てくる有名な“Frailty, Thy name is woman.”(弱きもの、汝の名は女なり)などを教えて頂きました。今も授業で教えられた内容を明確に覚えています。興味があり好きだったことはいつまでも覚えているものです。敬虔なクリスチャンであられた沢先生には授業で教えて頂く機会はなかったのですが、課外で聖書購読や讃美歌斉唱をご指導頂き、キリスト教に基づいた西洋の哲学や文学、美術などに対する考え方の基礎を学ぶことができました。米国の宣教師が主宰するバイブルクラスを紹介して頂き、大いに英語の実力に磨きをかけたものです。高校卒業後の大学の進路選択や会社での英国勤務において異文化理解に関する基礎を作って頂いたものと感謝しております。

大学は上智大学外国語学部英語学科を選択しました。英語に興味があったこと、将来英語に関係する職業に就きたかったことが理由です。上智大学はイエズス会宣教師を中心として外国語・外国文化教育を重視する大学です。この機会に多くの先生に教えを受け留学生と交流することができました。大学生時代に海外に行くことができなかったのも、今の学生を見ると海外に行く機会が多くありうらやましい限りです。

就職は三井物産を選択しました。国際的に活動しており、海外勤務の機会が得られると考えたためです。エネルギー部門に配属され、入社二年目には初の海外出張(マレーシア、アブダビ、フランス、英国)を経験、三年目には「英国修業生」として、一年間のOxford大学での学務研修と一年間のアフリカ・ザンビアでのOJT(実務研修)を経験する機会を得ました。海外の居住経験としては初めてであり、アジア、中東、欧州を経験したことにより大いに国際経験を広げることができたと確信しています。

さらに海外勤務として英国に2回、合計12年半に亘って駐在し、欧州を始め多くの国でたくさんの人と仕事をしてきました。仕事をする上での基本は常に相手(顧客、サプライヤーなど)と会話を重ね、お互いにベストな結論を導き出すことでした。商社に働く者として当たり前のことをやっていることなのに、それが相手に評価してもらえるようなこともあり、当然のことが相手にとって重要なことなのだと感じさせられることが多かった海外勤務でした。

37年の三井物産年勤務の後、縁あって名古屋大学経済学研究科教授に就任しました。大学として、「産学連携」を強化する事務経験のある教員を採用する基本方針の基で採用されたものです。教員として心掛けたことは、やや内的な学部学生に対してできるだけ外の世界を見てもらう海外に引っ張り出す機会を多く提供したこと、また留学生に対しては日本企業の現状、特に悪いことも含めて包み隠さず伝えたことにより、理解を深めるよう教育したこと。これにより、将来一人でも多くの卒業生がグローバル舞台において、また留学生が母国と日本の懸け橋となって活躍されることを希望しています。

思いかえすと私のグローバルの体験は新宿高校から始まっています。英語の先生方に未知なる世界や海外への目を開かせて頂いたことがその後の人生の重要な部分を占めています。「将来何をやるべきか」ではなく「今何がやりたいか」を自分のキャリアの基軸に据え、それをどのように将来に繋げられるかを考えてもらえればよいと思います。

(同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)